

次世代スポーツの「三間」解決に向けて

東海大学 萩ゼミ B

○佐藤 智也 佐藤 莉奈 篠田 勘太郎 高崎 晋太郎

1. 緒言

子どもの体力の低下の原因として文部科学省はスポーツや運動に不可欠な要素である「時間」、「空間」、「仲間」、いわゆる「三間」の減少を指摘している。「子どもの体力の低下は、将来的に国民全体の体力低下につながり、生活習慣病の増加やストレスに対する抵抗力の低下など、心身の健康に不安を抱える人々が増え、社会全体の活力が失われる事態が危惧される。」と文部科学省も懸念しており、子どものスポーツ環境を整備することは、次世代のスポーツ環境を整備することにも繋がるといえる。

本研究では、子どものスポーツ環境を整備するために「コミュニティパーク」を提案する。ここで取り上げる「コミュニティパーク」とは「子どもが地域の人々に見守られながら活動できる仕組み」、「世代問わずコミュニケーションを育む仕組み」と定義する。また、日本プロ野球球団「横浜 DeNA ベイスターズ」と「横浜スタジアム」は「コミュニティボールパーク化構想」という共同事業を行っており、このように「コミュニティ」に着目した事業を公共の横浜市の公園や総合型地域スポーツクラブを用いて展開することで「三間」を解決し、次世代へのロールモデルとする。

2. 「三間」の現状と考察

子どものスポーツ環境において、以下の3点が課題であるといえる。

(1)時間

- ・ベネッセ教育総合研究所「第2回 放課後の生活時間調査」
- ・ベネッセ教育総合研究所「小中学生の学びに関する実態調査」
- ・文部科学省「子どもの体力の低下の原因」

→考察：スポーツ参加に積極的な層が存在している一方で遊びやスポーツよりも塾や習い事を優先している層も存在している現状があり、スポーツ参加への意識が二極化しているといえる。また、子どもを取り巻くスポーツへの意識を改善するためには保護者へのアプローチも必要であるといえる。

(2)空間

- ・文部科学省「子どもの体力の低下の原因」

→考察：空間はあるものの、アクセスのしやすさ、親近感が欠如しているがゆえにその空間が有効活用されていない現状があるといえる。

(3)仲間

- ・文部科学省「子どもの体力の低下の原因」

→考察：少子高齢化に加え、(1)で取り上げた時間に付随して、周囲の友人が遊びやスポーツよりも塾や習い事を優先している状況では仲間づくりの障壁となることから、遊びやスポーツを通じて仲間づくりが行える仕組みが必要であるといえる。

3. 提言

本研究では、以上に取り上げた「三間」の現状を解決し、子どものスポーツ環境を整備するために「コミュニティパーク」を提案する。

(1)提言先

「横浜 DeNA ベイスターズ」と「横浜スタジアム」は「コミュニティボールパーク化構想」という共同事業を行っている。「コミュニティ」に着目した事業を民間だけではなく公共事業にも取り入れて「コミュニティパーク」を創造するという考えから提言先を横浜市とする。

(2)具体案

「子どもが地域の人々に見守られながら活動できる仕組み」、「世代問わずコミュニケーションを育む仕組み」として提供する「コミュニティパーク」では子どもたちの放課後時間においてスポーツと勉強が両立できるプログラムを実施することで文武両道を目指し、「三間」の現状を解決、ならびに子どものスポーツ環境を整備する。また、本プログラムを実施するにあたり、以下の3施策も導入する。

ア.シャトルバスの運行

・地域の小学校と公園や総合型地域スポーツクラブを結ぶことで移動の手間や時間解消
イ.スポーツボランティア制度の導入

・安全性の確保

→地域の大人が子どもを見守ることで、子どもは安心して遊び、学べる環境

・地域の大学から将来教員を目指す学生の実務経験の場としても提供

ウ.ポイントカード制度

・「コミュニティパーク」へ参加する度に子ども、ボランティアにポイントを付与

・ポイントは地域のプロスポーツ観戦チケットや図書カードと交換可能

→再利用に繋げる仕組みづくりと更なるスポーツ参加、学力の向上を促進

・子どもにおいては、シャトルバスを乗降する際にポイントカードをタッチすることで保護者にメールで通知するシステム

→子どもを預託する保護者への安心感を生み出す

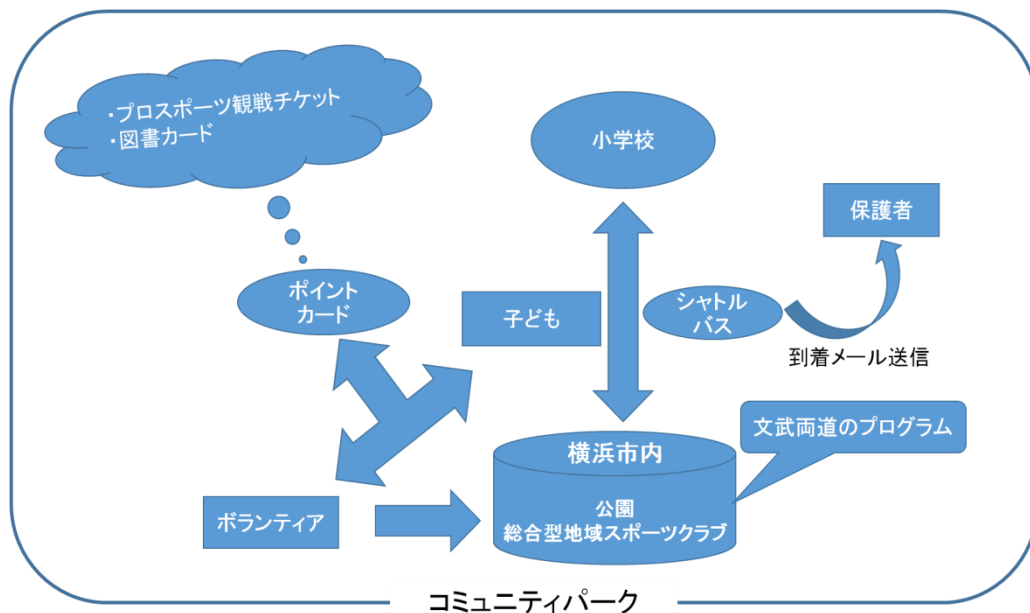


図1 「コミュニティパーク」の仕組み

(3)まとめ

本研究では、横浜市の公園や総合型地域スポーツクラブを用いて「子どもが地域の人々に見守られながら活動できる仕組み」、「世代問わずコミュニケーションを育む仕組み」いわば、「コミュニティパーク」という仕組みの創造、また、それに付随する各施策を導入することで「三問」解決を以下のように目指してきた。

・「時間」の解決策

文武両道のプログラムによって、保護者が懸念しがちな学習面のサポートも行う。それによってスポーツ参加への敷居を下げて放課後時間の使い方が学習面ばかり優先されないよう促す。加えて、シャトルバスの運行によって移動にかかる時間や手間を省く。

・「空間」の解決策

シャトルバスの運行により、空間へのアクセスのしやすさを改善する。加えてスポーツボランティア制度により、空間の安全性を確保する。

・「仲間」の解決策

「コミュニティパーク」という仕組みにより他校の生徒との仲間づくり、地域のボランティアとの交流を促進する。

・「維持継続性」促進策・・・ポイントカード制度

図2のように「コミュニティパーク」にアプローチすることで子ども、保護者、ボランティアと三者それぞれにメリットを生み出すことが可能となる他、これらの仕組みがポイントカード制度によって繰り返し利用されていくことで、結果として子どものスポーツ環境の整備へと繋げる。

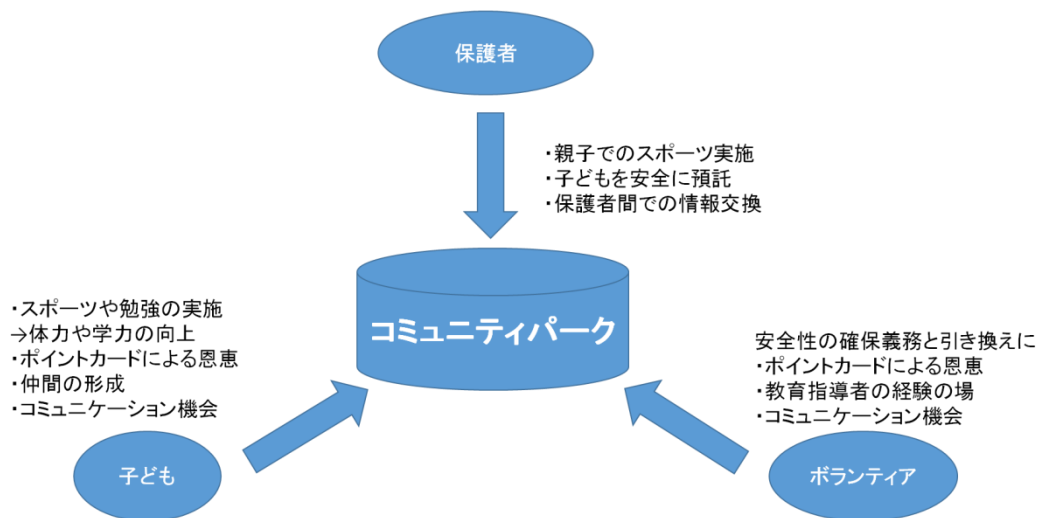


図2 三者へのメリット

4. 展望

緒言でも述べたが、子どものスポーツ環境を整備することは、次世代のスポーツ環境を整備することにも繋がるといえる。つまり、本研究の仕組みを利用した子どもが将来成長して大人になった際に、今度はボランティア側の立場として次世代の子どもをサポートする可能性があるということである。このサイクルが確立され、ロールモデルとなることにより、永続的なスポーツ環境の整備が期待できるといえる。

<資料・参考文献>

- ・文部科学省「子どもの体力の低下の原因」

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/gijiroku/attach/1344534.htm

(最終閲覧日 2015年10月22日)

- ・文部科学省「子どもの体力の現状と将来への影響」

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/gijiroku/attach/1344530.htm

(最終閲覧日 2015年10月22日)

- ・ベネッセ教育総合研究所「第2回 放課後の生活時間調査」

<http://berd.benesse.jp/shotouchutou/research/detail1.php?id=4278>

(最終閲覧日 2015年10月22日)

- ・ベネッセ教育総合研究所「小中学生の学びに関する実態調査」

<http://berd.benesse.jp/shotouchutou/research/detail1.php?id=4574>

(最終閲覧日 2015年10月22日)

- ・横浜スタジアム「コミュニティボールパーク」化構想

<https://www.baystars.co.jp/event/stadium/> (最終閲覧日 2015年10月22日)